

令和6年度 第2回多文化共生施策懇話会 議事要旨

|     |  |
|-----|--|
| 日時  | 令和7年2月28日（金）18：30～20：30                        |
| 場所  | 豊明市役所 新館1階 会議室6                                |
| 出席者 | 委員：塚本（会長）、阿曾、糸魚川、長山、松本、ホアン<br>事務局：松本課長、竹田補佐、吉田 |
| 傍聴者 | 0名   |

### 1. あいさつ

### 2. 【報告】「やさしい日本語」講座について（資料A）

◇ 資料について事務局より説明

### 3. 【報告】ベトナム語通訳の状況について（資料B）

◇ 資料について事務局より説明

（委員意見）

- ◆ 電話通訳はどんな体制か今一度確認したい。  
→オペレーターを介した三者間通話となっている。
- ◆ 外国人を日本の企業に紹介することがあるが、当日連絡もなしに来ないことがあった。事前に連絡を入れるのが当たり前だと思っていたが、当たり前が異なることもあるのではないかと。文化の違いについての相互理解に力を入れてほしい。
- ◆ 例えば写真を撮ることに対して場面によってマナーが違っていることがある、また日本語の文脈に悩む場合が多いので、明確に伝える必要がある。
- ◆ お互いの文化を知ること、伝えることが大事だと思う。
- ◆ 日本語は曖昧な言葉が多い。伝えなければいけないことははっきりと伝えていく必要がある。

### 4. 【報告】外国人の相談事例について（資料C）

◇ 資料について事務局より説明

（委員意見）

- ◆ 今まで役所は就職の支援まで立ち入ることが難しかったと思う。それが

コーディネーターができる部署ができたのは良いことだと思う。外国人市民にとっても、まわりの日本人市民にとっても良いことである。

- ◆ コーディネーターの存在は素晴らしい。
- ◆ 亡くなられた外国人の方のお墓はどうなっているのか。  
→ 今回のケースではご遺骨はご遺族と一緒に祖国に戻られた。
- ◆ 今はいろいろな葬儀に対する相談に乗ってくれる業者も増えてきていると聞く。
- ◆ 外国人市民は日本で亡くなった時の事を不安に思っているのではないかと思う。
- ◆ 今回の取組みは日本人に限らず重層支援をしていく中に多文化共生も含まれるという認識か。  
→ その通り。
- ◆ 課題だと思っている点は。  
→ 支援の手に繋がっているのはまだまだ氷山の一角。いかに気づきの目を何層にもしていくかがこれからの取組み。いろいろな活動をされている方に意識を変えてもらえるようにすることが足りていない。
- ◆ 情報をどこまで届けられるかが大事だと思う。外国人の高齢化も進んでいる。  
日本語教室にも就職先を探している生徒がいるので紹介したい。
- ◆ 日本語教室は人と人とのつながり、居場所になっていると思う。
- ◆ 職員が外（現場）に出にくい雰囲気はないのか。  
→ ない。
- ◆ 共生社会課の職員は国際交流協会のイベント等にたくさん顔を出して手伝ってくれるので助かっている。  
→ 福祉の部局は業務上どうしても窓口で受けるというスタンスになってしまう。  
共生社会課はもともと市民活動等を支援する立場にあり、外に出る機会があった。
- ◆ 豊明市はそういった支援の分野では他自治体より進んでいるのか？  
→ 高齢部局はかなり進んでいる。現在は全分野に拡大中である。重層支援を始めて外国人も日本人も変わらない、というのがよく分かった。
- ◆ ベトナム人の事例について、子どもたちもベトナム語より日本語が上手で、日本にいて希望したと聞いた。ベトナムから来る若者は仕事ばかりしているので健康に気をつけていない。今回の事例では、旦那さんが急に倒れた時、奥さんはすぐに助けが呼べなかったと聞いている。緊急時の対応について周知が必要。
- ◆ 事務局から皆さんに伺いたい。誰にも相談できない人はいかに支援を届けるかが大切だと話したが、日本人は周りに相談しない人が多い。外国人の方々は周りの人

に相談することはあるのか？いろいろな手続きになれており、相談にも来ていると思うが、どうか？

→フィリピン人の間では地域の友達などに情報が回るのが速い。

→ベトナム人はまず家族、続いて友人、同僚など一人で悩まず周りに話すことが多い。ただし、単身で日本に来て一人で住んでいると一人で悩んでしまう。

- ◆ ベトナム人で、周りとの交流のない人はいるのか。  
→ベトナムのコミュニティに入っている人が多い。技能実習など日本にいる期間が短い人はコミュニケーションがとれないことがある。
- ◆ 日本人市民と外国人市民の平均年齢には違いがある。外国人の高齢化が進めばいずれ問題が多くなるのではないか。
- ◆ 団地自治会にはどこにどういう人が住んでいるのかの情報が入ってこないで孤立している人の把握はできていない。
- ◆ 例えばフードバンクを行いそこに来てもらって会話を生むなど、情報を得るための活動が必要。
- ◆ 子ども食堂には外国籍の子どももたくさん来ている。

## 5. 【意見交換】外国人市民の実態を把握するためのアンケートの実施について

(資料D)

☆ 資料について事務局より説明

- ◆ 町内会に入っているか、自治会と交流しているか聞いてほしい。また、アンケートはもっと簡単になるのか。外国語だともっと文字数が多くなると思う。
- ◆ 外国籍市民約4,000人の10%となる400枚配布とのことだが、そこから回答のある人となるとかなり減ってしまう。もう少し増やせないか。少人数国籍の人の意見が聞ければヒントがあるかもしれない。
- ◆ 市町村のアンケートで10%は多い方だと思う。ただ回答率が悪いのは確か。
- ◆ 若い子どもに聞いても答えられない質問もあると思うが年齢の区切りはあるのか。  
→年齢の制限は設ける。
- ◆ 今年は国勢調査があるためそこからデータを引っ張れないのか。  
→一部重複項目もあるので可能だが、今年に行うものの集計はかなり先になることに加え、国勢調査で聞けない項目もある。  
→無作為抽出による外国人市民に対するアンケート調査は豊明市として初の試み

である。翻訳コストなどを考え対象はボリュームが多い国籍（言語）に絞ることとした。

- ◆ 回答の選択肢は多い方が分析しやすい。各SNSに関しては、SNSを使っていると回答した人に対して聞くと良いのでは。選択肢は「～に関する事」は省いて断定的にするとよい。
- ◆ 接続詞や余分な言葉は無くし、もう少し簡潔な文章にすると良い。
- ◆ 言語ができるかどうかの主観的な部分よりも、事実に基づくシンプルな聞き方が良いのではないか。  
→「話すことができる」の度合いが日本人の感覚と外国人市民の感覚でどうしてもズレが生じる。そのため状況を指定した細かい選択肢も考えている。
- ◆ 記入式にしてはどうか。  
→回収後に読むのが困難になってしまう。
- ◆ チェック式が良いと思う。
- ◆ WEBで回答できるとよい。
- ◆ 二次元コードを付けて読みこんでもらうのはどうか。  
→そのつもりである。
- ◆ 発送できなければ日本語教室で情報を共有することもできる。
- ◆ 豊明市に転入してきた時に答えてもらえると良いかもしれない。
- ◆ 市内在住を対象としているのであれば、WEB回答用の二次元コードが広く拡散されないように注意が必要。
- ◆ 結果は共有されるのか。  
→公表し、HPでも掲載される予定である。

## 6. その他

- ◇ 来年度以降の取組みについて事務局より説明（資料E）